

東京旭川会

～40年の歩み～



幸
い
な
る
か
な、
今
も
な
お
故
郷
を
持
つ
も
の
は
：

40th

Tokyo-Asahikawa Association 40th anniversary

共に故郷の未来を、東京から、旭川から

東京旭川会平岡敏男初代会長が会報「ななかまど」創刊号の中でドイツの哲人フリードリッヒ・ニーチェの詩「孤」の第一節、「鳥たちは鳴き声も高く翼うちふるわせて町へいそぐ まもなく雪も降ろう 幸いなるかな、今もなお故郷を持つものは」を引用して、東京に50年住んでも変わらぬ故郷旭川への深い愛情と想いを述べています。

旭川と東京をつなぐ架け橋

東京旭川会の40年

東京旭川会は今年で設立40周年を迎えました。始まりは東京で暮らす旭川出身の有志の「旭川をふるさとにもつ人々の懇親の輪を広げよう!」の声がきっかけです。今日まで続いたのは、年を経ても会員みんなの故郷への変わらぬ想いと会の運営に携わる一人一人が、強い奉仕の精神を持ち続けたからです。40年をひとつの節目に、東京旭川会が故郷とのさらなる架け橋になるよう、気持ちも新たに活動を発展させていきたいと思ひます。

東京旭川会歴代会長



初代会長 昭和52年～
平岡 敏男氏
(毎日新聞社会長)



第2代会長 昭和61年～
八木 祐四郎氏
(東京美術興業会長)



第3代会長 平成13年～
竹原 茂雄氏
(竹原法律事務所)

1977年(昭和52年)

東京旭川会総会・懇親会スタート

昭和52年10月17日、ホテル・ニュージャパンで155名もの人が集い、第1回目の総会・懇親会が華やかに開催されました。



第4回総会・懇親会の様子①

その後、参加者も第8回総会で305名のピークを数えましたが、時代の変化と共に増減を繰り返し、東京旭川会にも新しい風が待望されるようになりました。その第1弾として、第34回総会から旭川にゆかりのある人物を招いて講演会やシンポジウム、パネルディスカッションを実施しています。



第4回総会・懇親会の様子②

1979年(昭和54年)

「会報ななかまど」創刊

「ななかまど」は、旭川市の木であるナナカマドに由来します。ナナカマドは七度竈に入れても燃えない強い木とされ、花言葉は「慎重」「賢明」「安心」です。「ななかまど」は東京旭川会の「広場」でもあり、「道標」でもあります。強さと賢明さにあやかって会を運営していきたいと思ひます。



毎年発行される「ななかまど」

1982年(昭和57年)

初の「郷土訪問の旅」実施

旭川空港に大型ジェット機の乗り入れが実現したことを記念して、初の郷土訪問の旅が10月11日、98名の団体で実施され、地元旭川から盛んな歓迎を受けました。それ以降毎年行われています。一昨年の第27回郷土訪問の旅では、東京旭川会の第2代会長として16年の長期間務められた、故八木祐四郎氏(2001年没)を偲び、宮前公園に設立された八木祐四郎記念碑を訪問しました。



第1回目郷土訪問の歓迎の様子



お世話になった八木会長記念碑を囲んで

1980年(昭和55年)

「記念植樹」実施

郷土訪問では、大雪アリーナ旭山動物園に、周年記念では、ナノキを植樹し、旭川市の発展を祈る。



10周年のイチイがこんな

東京をつなぐ架け橋として

40年

40周年を迎えました。始まりは東京で暮らす旭川人にもつ人々の懇親の輪を広げよう!」の思いで、年を経ても会員みんなの故郷への思いを携わる一人一人が、強い奉仕の精神を持ち続けた。この節目に、東京旭川会が故郷とのさらなる架け橋として活動を発展させていきたいと思ひます。

東京旭川会歴代会長



初代会長 昭和52年～
平岡 敏男氏
(毎日新聞社社長)



第2代会長 昭和61年～
八木 祐四郎氏
(東京美装興業会長)



第3代会長 平成13年～
竹原 茂雄氏
(竹原法律事務所)



第4代会長 平成22年～
原 公朗氏
(原建築設計事務所)



第5代会長 平成24年～
高橋 照美氏

2年)

懇親会スタート

ニュージャパんで
の総会・懇親会が華

総会・懇



第4回総会・懇親会の様子①

505名のピークを数
増減を繰り返、東
れるようになりまし
総会から旭川にゆか
シンポジウム、パネ
ます。



第4回総会・懇親会の様子②



会場は賑やかに会話がはずむ
(第39回総会)



おいしい料理・郷土品コーナーを堪能
(第39回総会)



会場に貼られる壁新聞
(第39回総会)



ご来賓のご紹介
(第39回総会)

54年)

刊

あるナナカマドに由
に入れても燃えない
賢明」「安心」です。
広場」でもあり、「道
にあやかって会を運



と)

1982年(昭和57年)

初の「郷土訪問の旅」実施

旭川空港に大型ジェット機の乗り入れが実現したことを記念して、初の郷土訪問の旅が10月11日、98名の団体で実施され、地元旭川から盛んな歓迎を受けました。それ以降毎年行われています。一昨年の第27回郷土訪問の旅では、東京旭川会の第2代会長として16年の長期間務められた、故八木祐四郎氏(2001年没)を偲び、宮前公園に設立された八木祐四郎記念碑を訪問しました。



第1回目郷土訪問の歓迎の様子



お世話になった八木会長記念碑を囲んで

1987年(昭和62年)

「記念植樹」の実施

郷土訪問では、東京旭川会10周年を記念して、大雪アリーナにイチイを、30周年記念に旭山動物園にハルニレを、そして今年の40周年記念では北彩都ガーデンにミスナラとシナノキを植樹し、植樹した木の成長とともに旭川の発展を祈ってきました。



10周年のイチイがこんなに成長



今年植えたシナノキ



会長 平成22年～
公朗氏
(設計事務所)



第5代会長 平成24年～
高橋 照美氏



会場は賑やかに会話がはなむ
第39回総会)



おいしい料理、郷土品コーナーを堪能
第39回総会)



会場に貼られる壁新聞
第39回総会)



ご来賓のご紹介
第39回総会)

7年(昭和62年)

」の実施

東京旭川会10周年を記念し、1月にイチイを、30周年記念にルニレを、そして今年の40年を記念して今年度の40周年記念として、彩都ガーデンにミスナラとシナノキを植樹した木の成長とともに旭川市の成長を祝ってきました。



成長



今年植えたシナノキ

2010年(平成22年)

講演会を開始

第30回記念総会(2006年)で旭山動物園の小菅園長による講演を開催しました。2010年からは毎年旭川にゆかりのある人物を招いて講演会やシンポジウム、パネルディスカッションを継続して実施しています。

- 第34回(2010年)
「旭川市の観光を考える」(12名の観光大使によるシンポジウム)
- 第35回(2011年)
「がんばろう日本! がんばろう東北! そしてがんばろう旭川」(パネル)
- 第36回(2012年)
「新しい旭川駅の魅力と賑わいのある街づくり」(シンポジウム)
- 第37回(2013年)
「旭山動物園の未来について」(坂東園長講演)
- 第38回(2014年)
「ドラマを作る仕事」(「八重の桜」の脚本家・山本むつみさん講演)
- 第39回(2015年)
「だから大相撲はおもしろい」(北の富士さんと岩田公雄さんの特別対談)



講演会の様子



小菅園長



山本むつみさん



坂東園長



北の富士さん

2011年(平成23年)

小中学校別グループによる懇親会

2011年の総会からはグループを小学校・中学校の地域で分けた8グループ制にし、大きなネームカードを作成することによって、世代を超えて交流が活発になりました。みんな仲良くなれました。顔なじみが増えました。



第35回総会から39回総会まで、テーブルを小・中学校別に分けて工夫してみました。

2012年(平成24年)

「石川啄木歌碑」を建立

旭川で4首の歌を詠んだ石川啄木の記念碑が、JR旭川駅構内に建立されました。石川啄木没後100年の2012年4月13日に除幕式が盛大に行われ、その模様は新聞・テレビなどで報じられました。これは2010年の東京旭川会シンポジウムの中で会員から歌碑建立の提案があり、東京旭川会と地元の「旭川に石川啄木の歌碑を建てる会」が中心となって、全国から寄付金を集めて実現しました。



打合せの様子



駅構内に建立された様子



除幕式の様子

日本のレスリング発展のために!

東京旭川会の元副会長・吉田義勝さんも一役。

リオ・オリンピックの日本のメダルラッシュに、旭川市も貢献しています。旭川市第1号のゴールドメダリストで、日本のレスリング発展のために尽力されてきた東京旭川会の元副会長・吉田義勝さん(写真)。吉田さんのご協力もいただき、旭川市でオリンピック直前強化合宿をした日本の女子レスリング選手たちがリオデジャネイロ・オリンピックで大活躍。大きな成果を上げました。旭川市と市民そして東京旭川会も共に喜びあうことができました。ありがとうございました。



吉田義勝さん

私もずっと応援させていただきます!

岩田公雄氏のメッセージ

「東京旭川会が石川啄木歌碑の建立を提案し、市や市民を巻き込んで実現したことは素晴らしいことです。講演会などで毎年いろいろな工夫をされています。これからも頑張って欲しいと思います。私もずっと応援させていただきます」



岩田公雄さん

プロフィール:旭川観光大使、学習院大学法学部・特別客員教授、元・読売テレビ報道局長。現在、「ウエークアップ!」(「情報ライブミヤネ屋」)のコメントーターとしても有名。



旭川出身のミュージシャン、川回翼さん(左)、宮澤篤司さん(中)、長谷川大(右)さんによるミニライブ(第39回総会)

あざびーも 観光大使の朝妻さんと応援(第38回総会)

東京旭川会は「話」「輪」「和」で、絆の「環」に。

東京旭川会運営の「話」と「和」

東京旭川会は幹事役員がいくつかの担当部会に分かれ、それぞれが連携して会を運営しています。スムーズな運営には役員同士の親密なコミュニケーションが欠かせません。そのために散歩の会や小旅行、ゴルフ等を定期的に行い、親睦を重ねて「話」で「和」を大事にしています。



散歩を楽しむ会

都内の名所旧跡を郷土史家と共に歩く歴史散歩の会です。この日は両国界隈を歩き、八角部屋に行き、二人の旭川出身の若い力士と記念写真を撮ってきました。



恒例のゴルフ会

昨年11月、第六回親睦ゴルフ会を開催しました。この日は、天候にも恵まれ参加者は17名。プレーしながら見ごろの紅葉を鑑賞し、とても楽しい会となりました。

若い力を応援する「輪」

スポーツ、文化、芸能など幅広いジャンルで、これからも東京旭川会は旭川出身の若い力を応援していきます。大相撲では旭大星、北勝川、北勝波など。スノーボードでは竹内智香選手。女子柔道では銅メダリストの山部佳苗選手。映画では注目の白石和彌監督など。旭川出身の若い世代にも東京旭川会に入っていただきたい。大きな「輪」になって一緒に応援しましょう。



13年ぶりの道産子関取 旭大星

旭川の大きな星という素晴らしい四股名の旭大星は、2014年6月新十両に昇進。会でも有志が祝賀会に、応援に(写真)。早く十両から幕内へ上がって大活躍してほしい。



スノーボード 竹内智香選手

ソチ五輪スノーボード「大回転」で銀メダリストの竹内智香選手にワールドカップ旭川大会で「日の丸寄せ書き」応援旗をプレゼントしました。2018年、韓国の平昌オリンピックもガンバレ!



日本アカデミー賞の映画監督

2013年「凶悪」で新藤兼人賞金賞、第37回日本アカデミー賞を受賞した白石和彌監督は旭川出身の41歳。2016年は「日本で一番悪い奴ら」が話題に。今冬には「牝猫たち」がスタンバイ。注目の映画監督。

東京旭川会の名刺作成

旭川のカラー写真の付いた名刺作成を斡旋し、好評を得ています。名刺を持つことで故郷を応援する気持ちと会員間の一体感も増します。ご希望の方はお問い合わせください。



総会・懇親会、郷土訪問の旅参加人数の推移

総会

郷土訪問



「東京旭川会40年の歩み」制作にあたり

会報「ななかまど」の創刊号(1979年)に当時副会長の谷武雄さんは、『郷土の広場「ななかまど」のこころ』と題して一文を寄稿しています(部分引用します)。「一つの会が内容を充実させ、発展させることは、容易ではない。一にかかって中核となる世話人が奉仕の精神で、会そのものの牽引車の役目を果たすかどうかにかかっている。と同時に、会員一人ひとりが世話人の心を心として協力していかなければ、会の発展はおろか、会を維持していくことも難しくなる。ゆえに、この集まりが会が発展するに

は、一にも二にも心だと思う。旭川出身者がこの会を通して何を求めているか、リーダー(幹事)は、どうすれば奉仕者(ボランティア)としての務めが全うできるか。私も知恵を絞りながら設立当時の新しい心に立ち返ってご奉仕を続けたい。」と宣言されています。「東京旭川会の40年の歩み」を振り返るにあたり、私たち後輩は、このような創設時の大先輩の高邁な精神を再度思い出し、東京旭川会がこれからさらに50年、60年の節目を迎えられるよう、この糧としていきたいと思っております。(東京旭川会)